

平成27年度 市民協働型まちづくり事業補助金事業公開提案会・選考会

日 時：平成27年6月12日（金）9：30～15：30

場 所：市民会館 ・第7会議室・第5、6会議室

参加委員：委員17名（渡邊（恵）・横山・小宮山（洋）・勝又・小松・勝間田・
小宮山（な）・山崎・平野・湯山・渡邊（達）・府川・田代・佐藤・
南茂・根上・井上）

合計17名

事務局：課長・統括・鈴木・寺島（市民協働課）

1 開会（課長）9：30

2 会長あいさつ（渡邊（恵）会長）

3 市民協働型まちづくり事業提案説明 9：35～11：20

事業計画書に基づき、市民提案部門応募7団体より事業説明が行われた。
説明後の行政からの説明と主な質疑応答は以下のとおり。

①事業名：「魅力ある東山路」づくりから始まる観光ハブ都市御殿場市
団体：東山路観光協議会（説明時間：10分20秒）

行政（商工観光課）：東山、二の岡地区は今後の御殿場の観光の名所となる。私たちのこれからの観光PRに存分にこちらの地区を活用していき、御殿場の魅力の一つに関わっていきたい。今年度は事業効果が最大化される。今後の展開としては、おすすめコースの作成、英語版の作成を考えている。一緒に協議をして頑張らせて頂きたい。

委員C：非常に趣旨に興味がある。御殿場市の文化論ということで市の方も今後どのようにしていくのか考えていると思う。地元でこのような活動をされることは大変嬉しいこと。まだ事業は小さいが、今後はもう少し首都圏へ向けての展開を考えてほしい。

団体：実際に、大きな旅行会社から問い合わせもある。非常に大事なところで、受け入れる側も、いわゆる観光地の大型バスが連なって人だらけということは望んでいない。いい所はまだたくさんある。黒沢さんの別荘など載せたいところはあったが、落ちてしまった。受け入れる準備を徐々にしながら、もちろん首都圏、興味のある外国の方にもじっくりと味わって頂きたい。割と自然が大切なところなので、手つかずの自然が残っている。協働という立場をもっと広げ、みなさんと知恵を出し合って将来を考えていきたい。

委員D：秩父宮公園は平日、ほとんどお客様はいらっしゃらない。あそこは大型バスを駐車できるので、例えば入園の割引券とか無料駐車券を配布したらどうか。二の岡地区にはお宝がいっぱいある。御殿場市の観光協会ともうちょっと連携してもらえば、非常に将来性がある。

団体：去年の4月に活動を始めたばかりである。個々には各事業所、観光協会の方にあいさつをさせていただいている。自分の身の周りのできることから始めたので、よい提案があったらお願いしたい。

②事業名：地域ねこ活動事業

団体：地域ねこ活動の会 (説明時間：5分30秒)

行政（環境課）：野良猫に関しては、猫は愛護動物ということで行政が捕まえて処分はできない。野良猫の良い解決策案が、この地域ねこ活動になる。環境課としては、地域の住民の方の説明と一緒に同行させてもらったり、保健所や区の方へ連絡調整をしたりしている。やはり、ボランティアだけではなくて、行政も関わっているということで安心感が得られているように感じている。この事業は御殿場市の新橋区も関わってくださっている。ボランティアの方もいて、その二者間の中心になってやってくれている。市の方は猫には手を出せないで、周知やどういう風な活動をしているとか、主に情報や苦情の窓口として情報提供をしている。この問題は住民の方々にご厚意をいただけないと解決できない。このようにうまくいっているのは地域の住民の方、ボランティア団体があつての事業なので、大切にしながらどういう風に継続していけるのか考えていきたい。この事業のおかげで周辺のところでもPR活動をしてみたいという声もあり、事業の拡大につながっている。今後どのようにしていくのか、一年間の大切な課題として継続の方向性は考えている。

質疑なし

③事業名：御殿場口の外来植物を駆除するためのハンドブックを作成

団体：特定非営利活動法人 富士山の森を守るホシガラスの会
(説明時間：9分6秒)

行政（環境課）：このような植物の活動に関して、現地に行っていただくという行動力、以前の状態とどのように変わっているか比較していく継続性、実際の植物の状態を判断していく専門性が必要となってくる。それぞれに対応するということできめの細かい調査が必要である。厳格に取り組んでくださっているとわたしたちも考えている。環境課一同取り組んでいきたい。

委員H：非常に壮大なテーマで活動されている。事業の取り組みの中で侵入植物の除去、例えば、ススキ、スギナにしても非常に困難なことである。これらを除去する処方として、ある程度見通しのあるかたちで取り組まれるのだろうか。

団体：じっくり調査をしながら、どんな方法があるのかふまえて考えていきたい。

委員H：非常に壮大な計画なので、努力していただきたい。

委員F：見積書によると、印刷会社は御殿場にあるものではダメなのか。

団体：これから考えていきたい。広く、公平に。

委員F：御殿場市内の業者の方がいいのでは。もう一点（環境課に対して）この後の“富士山みどりの会”と、どちらも環境課が関わっている。その比較はどのようなものか。協力してやっていった方が、効果が上がるという感じはあるか。

環境課：この後の富士山みどりの会のプレゼンを聞いて頂きたい、活動内容の中でホシガラスの会と協力してコミュニケーションをとりたいと考えている。

団体：お互いやっている行動の次元が違うという感じがしている。それは、二つ合わせると非常に素晴らしい事業になるということ。我々は常に情報公開している。

④事業名：貴重な植物の群生地や絶滅危惧植物を守ろう

団体：富士山みどりの会 (説明時間：8分18秒)

行政（環境課）：今富士山にある植物を育てられている。こちらも継続していくことが必要となっていく。今年度2年目ということで実績もある。更なる事業の拡大をしてほしい。4年目以降の活動については、われわれ行政と団体と一緒に検討していく必要があると認識している。あとは今年度の事業に対して支援をしていきたいと考えている。

質疑なし

休憩 10：30～10：37

⑤事業名：第2回富士山アートフェスティバル

団体：NPO ありがとう ふじさん (説明時間：5分3秒)

行政（企画課）：富士山というものに対して文化的側面から興味関心を高め、富士山が世界遺産ということを目的としていくことで活動していく。行政の関わり方としては、主に情報発信や関係機関と調整が必要となった

場合にご協力させていただく。今回が3年目の事業である。前回、前々回と事業を開催する中で、課題としてあげられたことに関しては、それを改良してより良い事業を行うように打ち合わせをしていきたい。

委員A：今年はミュージカルはやらないのか。

団体：やらない。ただ準備はしている。その中で完成している曲は発表したい。

委員A：予算書の舞台費、製作費、衣装代はどうか。

団体：やらないので、その辺はちょっと…。実際には、それを差し引いても全然足りない。

⑥事業名：食育とキッズクッキング

団体：キラキラキッズクッキング

(説明時間：8分21秒)

行政(子ども家庭センター)：以前から協働で実績がある。行政の得意とするところと団体の得意とするところの役割分担がこれまでうまくできている。子ども料理教室という企画運営をやってくれるなど協働の典型的な成功例でやってきた。引き続きこの提案に基づいて、特に子ども家庭センターは児童館的な機能を引き継ぐものとして小中学生の利用者の拡大が課題である。行政としても、一緒に協働してやってもらいたい。

委員P：年5回ということだが、定員は何名か。

団体：20名。募集をかけるとすぐにいっぱいになる。

委員P：参加費は無料か。

団体：家庭センターの方で200円を頂いている。

委員F：講座の時に子どもたちに保険に入ってもらっているか。

団体：保険については…その辺については確定していないので、この場で即答はしかねる。もし、必要なら後ほど家庭センターの方に確認したい。

⑦事業名：我が子流子育てをつくろう！～家族のコミュニケーション力向上事業～

団体：Motherese(マザリーズ)

(説明時間：8分43秒)

行政(子ども家庭センター)：この事業については子ども家庭センターに限らず、多くの活動と関わりのある事業だと思う。その中で、子育てに関する先進的な取り組みで、行政ではなかなかできない民間ならではの取り組みである。そういった中で、行政としても、告知をしたり、場所の確保や借用をしたりご協力できればと。行政でやる事業との方向性は合致しているので、協働事業としてふさわしいと思う。

委員G：現在、役員3名だけで活動されているが、今後の見通しは。

団体：基本はその3名で行っている。御殿場市にはママ友サークルがたくさんある。そういったところと連携をとったり、協力を依頼したり、私たちだけではなく横とのつながりを密にして、もっと知っていただきたいと

考えている。

委員H：事業計画を拝見して、非常に過密な形でもって大変な事業だと思うので、ぜひ頑張ってもらいたい。非常に素晴らしい事業なので、応援したい。

委員F：映画「うまれる。」は初めての上映か。

団体：「うまれる。ずっと一緒」は初めて。一昨年前、和母塾の“はじめの一步”の事業で第一弾の上映会をした。活動のメンバーが仕事をしているため関われなくなり運営が難しくなった。その中でもこれはすごく必要な活動だと思った。第二弾は和母塾の活動できるメンバーにも参加していただく。また、色々な方に協力をいただいでやろうと考えている。

委員F：また別の作品か。

団体：内容は別である。

委員F：できれば字幕付きでやっていただきたい。

4 閉会（課長） 11：15

審査会 12：45～

（1）はじめの一步部門

審査用紙集計結果を団体ごとに公表し、点数・書類により審査が行われた。冒頭で事務局より審査用紙に記された委員のコメントが読み上げられた。

審査用紙集計結果

団体名	点（40点満点）
ブックシェアリングごてんば	32.5
道しるべの会	32.7

①（ブックシェアリングごてんば）

【審査用紙コメント】

- ・本の回収リサイクルに対するインセンティブが働きにくい中、回収方法については可能か。財源についてリサイクルブックの配架先等からの負担を検討する必要があるのではないか。
- ・成長と共に不要になった本の活用は良いと思います。
- ・絵本の提供先の選定など、行政は平等性が問われるので市民協働に適していると思う。
- ・効用のある事業だと思います。図書館との調整をしっかりといただければと思います。
- ・絵本を無駄にしないため、読書活動のため、良いことと思います。

ファシリテーター（以下ファシリ）：特にご意見がないようなので5万円満額を推薦する。

☞ ブックシェアリングごてんば 補助金額：50,000円

② (道しるべの会)

【審査用紙コメント】

- ・子ども家庭センターの補助事業でなくてよいか。(事業・継続性が不要)
- ・発達障害などの子どもの家庭に対してはもっと支援すべき。
- ・情報交換で親同士の負担も軽減されると思う。
- ・チラシ等のコピーはPC出力で可。(部数が少ない)
- ・支援に対する潜在的な需要への働きかけなど行政では敷居が高いので市民協働に適していると思う。
- ・発達障害か、そうでないのか、まず、誰かに相談しようとするのが難しい。一人で悩んでいる人をどうしたら参加してもらえるか。子ども家庭センターだけではなく他の行政とも連携する必要があると思われる。

ファシリ：チラシ印刷でカラー50円は単価ということか。

委員D：単価50円は高い。私たちもカラーでも安いところでやっている。特に10円ぐらいでもカラーができる。

委員：ふじざくらの市民活動室の印刷機を使えば、もっと安くできるのでは。他を使った方がいい。

ファシリ：印刷費がほとんどを占めているので、その部分を少なくする。子ども家庭センターも同じふじざくらにあるので、その印刷機について、なにか指導をしたらどうか。

委員F：チラシ1部じゃなくて、何部かでということではないか。

委員H：カラーでも50円は高い。ふじざくらは10円、両面でも20円。せっかく市民活動室があるので、そちらの方を使っていたきたい。

委員H：紙質が良いものを使って印刷するとよい。できれば、印刷代を下げ、減額というよりは他に何か活動できるようにならないのか。

委員F：単価を下げ部数を増やして配る。

委員H：金額についてはいじらない方がいい。

委員E：紙は持ち込みであるのか

委員H：持ち込みになる。紙質の良いものによって全然変わる。

ファシリ：印刷製本費をもっと単価が安いところを紹介してもらいながら、50000円ということで推薦する。

☞ 道しるべの会 補助金額：50,000円

*カラー印刷について、ふじざくら内の印刷機を使用するなど単価の安い印刷機を使用して頂きたい。 と伝える。

※道しるべの会の0評価について

事務局：コメントで子ども家庭センターの補助事業じゃなくていいのかと書いた方が協働の理解度と手法・形態に0をつけている。

J委員：子ども家庭センターの何かの事業の一つのとしてやればいいのではないかということだと思う。

ファシリ：市民協働型ではなく行政提案型ということか。

委員K：潜在的な需要がどこまで浸透しているのかは行政が図れない点や、行政にいきなり飛び込めない親が親同士のつながりで、こういうメニューを知ることができる点で0の評価はどうなのか…。内容を深く知っていくと市民協働として公益性はある。子ども家庭センターは臨床心理士が2名いるので主管課としての意識は高い。臨床心理士は発達障害の段階を判定する。子ども家庭センターでよいと思う。

ファシリ：すぐに行政の方に行くのではなくて、同じ思いの人に話し、それから行政に行く。そこがあるということで、より上に行きやすいと考えると市民協働でやって、子ども家庭センターの方で専門的に見ていただく。段階を踏むということで“はじめの一步”としてとても大切なのではないか。

委員H：同感である。

(2) 市民提案部門

審査用紙集計結果を公表し、点数・書類とプレゼンにより審査が行われた。発表順より団体ごとに審査。それぞれの冒頭で事務局より審査用紙に記された委員のコメントが読み上げられた。

審査用紙集計結果

順位	団体名	点(60点満点)
1	東山路観光協議会	49.3
2	地域ねこ活動の会	51.5
3	富士山の森を守るホシガラスの会	49.3
4	富士山みどりの会	47.6
5	NPO ありがとう ふじさん	43.6
6	キラキラキッズクッキング	38.7
7	Motherese (マザリーズ)	50.9

※「地域ねこ活動の会」は市民委員1名、「NPO ありがとう ふじさん」「富士山の森を守るホシガラスの会」「富士山みどりの会」は行政委員が2名が加入しているため、審査に加わらなかった。

① (東山路観光協議会)

【審査用紙コメント】

- ・今後の事業の拡大・充実に期待できる。
- ・今後の活動に期待がもてる。
- ・目的・手段がはっきりしていて効果のある事業だと思います。
- ・将来的に市の発展に寄与すると思われます。(その為のサクセスストーリーを立案してほしい。)
- ・市民協働型の理念にかなっている事業だと思います。
- ・需要の高まりに資金が足りているのか懸念されます。

ファシリ：おおむね評価がよい。プレゼンが独特だった。もっとこのマップを活用してもらえないかという意見はあるか。

委員O：今年度の事業費は増刷に経費があてられている内容だったが、計画にあるように、お金がかからないけれど積み上げなければいけない今後への展開がきちんとできたのかと、報告の時にきちんと検証したほうがよい。特にこの東山区の方とコミュニケーションを図りながらしていきたいとプレゼンの中で発言があり、いろいろ事業の夢が膨らむ提案があった。今度は検討すると表現されていた。どんな変更がされたのか評価の時に検証したい。

ファシリ：マップができて7月からイベントなどの展開、12月からの観光客のリサーチ。マップができたなら終わりではなく、これをいかに活動してもらえるか、協働事業の大切なこと。きちんとそのような報告をしてほしい。

委員C：1の評価がある。間違えての1なのか、

事務局：項目はプレゼンの提案の方法で1の評価がされている。

ファシリ：どういうふうな事業をするか説明をしてほしかったが、プレゼンの中でその要素がなかったので点数が低い人がいた。報告会時にはそれにのっとった形で説明していただきたい。また、時間をしっかり守っていただく。その点をふまえて、分かるような形で説明していただき、事業は満額でそのまま頑張ってくださいといことでよいか。

一同：異議なし

東山路観光協議会  補助金額：300,000円

*報告会の際に今年度の事業についてしっかり説明してほしい。と伝える。

② (地域ねこ活動の会)

【審査用紙コメント】

- ・補助金以外に収入確保が課題。補助金の精算後、時期の交付までをつなぐ自己資金が得られると良い。
- ・事業として継続していただきたいのですが、補助最終年度ということで、今後の資金面等の対応がどうなるのでしょうか。
- ・御殿場全体の活動に普及することを期待したい。
- ・これこそ、全国ニュースなので報道される社会問題です。放置しては困ることなので、もっと行政が関わるべきです。ボランティア性が高いようなので気の毒と思いました。
- ・来年度以降の財源の確保について見通しが明るくない。

ファシリ：この事業は3年前から非常に評価が高い事業、やはりこれはとても必要。一番心配なのは、3年終わったあと。その点をどうするのが一番気がかりなこと。行政の方のコメントでも、今後もっと発展させたいということであった。この先、お金が出せなくなったとき、地域の方との連携が大切になる。

委員F：動物保護団体からの補助金、区で動くといったら区からお金がでるが、それくらいしかない。御殿場以外の市町では猫の手術費用を出している。その点に関して御殿場市の保健所も困っている。

委員O：先ほどの“道しるべの会”と違って、この事業はぜひ御殿場市が委託と

いうかたちで経費を全面的に支援することで計画をしていく事業だと思う。交付金という形で、公益性が非常に高く、市の職員が直接やっていないということ以外はほぼ、行政がやるべき仕事を肩代わりしているという側面が他の事業より大きいと思う。今、ノウハウを持っているのは特にこの団体だけである。市民協働に甘えて、補助金を出すからやってもらおう事業ではない。

ファシリ：行政側も、今後のスケジュールについて考えていきたいというかたちで終わっている。協議会としても、もっと後押ししていきたい。継続できるような話し合いをなるべく行政ともっていただく。行政の関わりの中で今後について打ち合わせをしていただきたい気もする。

委員G：昨年区長をやった。区長会の最後に、湯沢区の区長勝又さんから報告があった。そこで初めて状況を知った。先ほど、区長への協力とあったがもう少し呼びかけてほしい。市民協働型事業について聞いたことはあったが、このような事業をやっていることは知らなかった。もっと区長会で具体的にPRをしたらどうか。

委員：湯沢区は区の中で、区費でやっている。

ファシリ：前はチラシを配布し、住民の方に啓発していた。そのチラシを区長会で配っていただいていた。それをまとめているのは市民協働課である。

委員F：新橋区や湯沢区は野良ねこの被害があるため、協力が得やすい。畑や空き地が多いところだと、自分たち猫だったら自分で面倒をみればよい、野良猫はえさをやらなければいなくなると考えている人が多い。区として果たしてやっていけるのだろうか。ほっとくと増えてしまうということをなかなか理解していただけていない。

ファシリ：とりあえず投げかけてみて、区長がどのように捉えるか。それを自分たち問題と捉えると、それはちょっと様子を見ましようということになる。みんなで言うていただくことが、野良猫を減らす方向に行くと思う。

委員H：非常に公益性の高い事業である。一つの市民団体が取り組むには大きすぎるかたちだが、継続していかなければいけない。したがって、今回は満額としてだけではなくて、市長の方にも当然提出されるものなので、これで3年間が終了してしまうため今後委託のようなかたちでお願いできるようにしてほしい。会としてみても、それがアピールできるかどうか、いくつかのところで発信をしてほしい、これはなかなか簡単に行くものではない。せつかく非常に良い事業だと言われているので、なんらかの形としてこの会としても発信していけたらどうか。

委員J：財政課としては、予算交付の理由、きっかけがないとできない。ぜひ、要望をつけていただいて上にあげてもらいたい。

ファシリ：推薦のコメントにつけて頂く。では、満額でよろしいか。

☞ 地域ねこ活動の会 補助金額：300,000円

*区長会で積極的に事業の呼びかけをしてほしい。

*公益性が非常に高い事業なので、また来年度以降につながるような活動の報告を期待している。 と伝える。

③ (NPO 富士山の森を守るホシガラスの会)

【審査用紙コメント】

- ・将来を見据えた大切な事柄だと思いました。
- ・ガイドブック500部は少ないと思う。
- ・スケジュールが具体的でない。環境課の役割が具体的でない。
- ・調査研究、ハンドブックの作成は貴重である。市民協力がなければ事業ができないと思う。しかし、来年度以降の駆除のためには、さらに専門的な第三者の意見や機構などの自然条件が変動する中でも富士山の食生を原生種に固定すべきか、行政と市民の将来方針の決定が必要と思われる。入山者も増える様々な立場の研究者がいる中では、事業の方向性の後ろ盾として行政の決定が求められる。
- ・テーマがはっきりしていて目的が明確だと思いました。

ファシリ：今年はガイドブックを作るだけ。ガイドブックを一般の方向けのポケット型ならもっと大勢の人も使えると思う。

委員D：これは不特定多数対象ではない。外来植物を除去しようと活動する人がもっていないと、外来種植物の判断が難しい。小さいガイドブックがないと。500部でも少ない、来年度以降また申請を出してやってほしい。

ファシリ：500部の根拠は。

委員D：ほんとはお金があれば、1000部、2000部やれば、部数に比例する。本当は2000部ぐらいがちょうどいい。予算とのからみで今年度は500部ということになっていると思う。

ファシリ：一番気になった点は根が深いものスはスコップを使うこと、戻すときは大丈夫か。ススキを取るために他の多様性植物の種も一緒にとられてしまい危ないのでは。

委員D：重機を持って来たり、場合によってはスコップを使っていたりと思う。みどりの会も同様に手取りで行っている。ほとんどの団体がボランティアでやっている。大変なことである、一方で高齢化している。参加者も非常に少ない。ホシガラスの会もだいぶ予算的に大変になってくる

と思う。当然、肉体労働である。みどりの会もほとんどの方は70歳以上である。

ファシリ：環境課の関わりが分かりにくいという意見もあったが、環境課の方はどうか。

環境課：17ページにあるように、今回対応させていただくのはガイドブックに対する調査、原稿の監修。ガイドブックとして分かりやすく、みなさんに理解していただけるものか環境課の方で内容を見させていただく。

ファシリ：30万の申請について条件をつけたほうがよいか。

委員O：監修のところであきらかに「外来種となっているもの」、「何年以降は植生があるのか、ないのか」、そのような難しい内容についての監修は団体がイニシアチブをとってやっていく。行政のほうも検証して、採取された時でも無駄の採取とならない判断はできるのか。

環境課：それが在来のものであるのか、判断するのは環境課では難しい。外来種に関しては、もともと富士山にある植物なのか、侵入してきたものかの判断はなかなか専門家でないといけない。その部分はお任せする。

委員D：外来種の対策会議でホシガラスの会が、場所とどういうものがあるのかをカラー写真で提示していた。場所もおさえていると思う。

ファシリ：御殿場口の土地の所有者とは話し合いはできているのか。

委員D：全部国有林が対象。二合目以降。森林管理署と連携をとって活動している。全部一緒に行動して許可を取っている。

ファシリ：満額でよいか。

👉 NPO 富士山の森を守るホシガラスの会 補助金額：300,000円

④ (富士山、みどりの会)

【審査用紙コメント】

- ・借上費252000円は構成員に対する謝礼が含まれていると思われる。
- ・富士山世界遺産という表向きの華やかさと裏腹な、地味なのだけれど、大切なことなので、ぜひ続けて欲しいです。
- ・継続性が大事な事業だと思います。補助金終了後も継続して事業を推進されることを望みます。
- ・ホシガラスの会と同様。植樹できない他の植物や全体植生など専門的見地からの意見も求めたい。
- ・継続による効果が大きいので、補助終了後の計画が必要になる。
- ・貴重植物の植栽スケジュールが具体的に標記されていない。
- ・適性の時期があるのではないかな。

ファシリ : 23ページの別紙参照の資料がついてなかった。事務局に問い合わせたところこの会の活動内容の計画書だったので、今回は付けなかったということ。コメントの中に計画が分からなかったとあったがそれは資料がなかったからだと思う。借上費について、事務局はなにか聞いているか。先ほど、謝礼が含まれているのではないかとコメントにあった。

事務局 : 去年同様に調整させてもらった。

委員D : 実績報告を市の方にするとき、軽トラやワゴンは団体構成員の領収書になるのか。

委員F : 65回も何に。

委員D : 軽トラの場合一回3000円となっている。これは団体構成員の領収書が提出されているのか。

事務局 : (内規参照) そこまでの細かい領収書は(ない)。前回の報告がないので調べてみる。謝礼とか内規の基準がある。現在はそこまで細かいチェックはしていない。補助金の内規、支出の行の上から2行目、旅費、会場までの交通費、ガソリン代等がある。ここのガソリン代ということで認めている。ただ、それが毎回3000円なのか、そこまではチェックはしていない。これについては会員であろうが、なかろうが区別はない。報償費や謝礼については団体外の講師しか認めていない。このような燃料費等の区別は今のところしていない。

ファシリ : 金額が大きいので、謝礼も含まれているのではないかと思える。事業内容を含めて聞くと、一回に何台か行くと思う。借上費の中にガソリン代も含まれているのでは。書き方としてトラックが何回、何台、作業していると書いてもらったほうが分かりやすい。

委員H : バッコヤナギは富士岡の方に何か所か移動された形で畑を借りて、育てている。一か所の活動拠点ではなくて、何か所か活動拠点がある。それでも65回は…。内容として詳細が必要。

委員D : 活動自体は非常に素晴らしい。そこを評価して、色々となんとかご理解いただければ。

ファシリ : 一番初めに言ったとおり、これに基づいた計画書が添付されていればよかった。

委員H : ホシガラスの会もみどりの会も富士山の光と影の部分を頑張っている。

委員N : コメントの中で植栽時期については自分が書いた。専門の方の知識と実績があると思われるが、軽トラックが山の中でどこからどこまで入っていくという具体的な方法が示されれば何も問題がない。これに細かく65回を指摘することは揚げ足とりになる。

会長：報告会のおきには、そういうことが分かるようなかたちで提出していただきたい。30万満額でよろしいか。

☞ 富士山みどりの会 補助金額：300,000円

*借上費について、団体構成費に支給する場合は燃料費分のみとする。を条件とする。

⑤ NPO ありがとう ふじさん

【審査用紙コメント】

- ・市民各地で文化的なイベントはかなり行われている。【一般以外に市民芸術祭等】そこで、子共たちも参加している。イベント的にダブリもありマンネリ化しているとみえています。
- ・市民への広報活動、他団体との協力体制が不明。
- ・市民会館会場費は企画課を通しておさえられないのか。
- ・来年度以降、実施のミュージカルの練習で補助金を充ててかまわないか。
- ・事業の発展性を感じました。今後も充実した事業展開を期待します。

ファシリ：世界遺産登録後もいまだに同じようなイベントが多いので、評価低いのでは。

委員B：富士山を全面に出して、公益性はない。必要はあるのか。

委員O：ミュージカルを今年はやらないとしたら…

ファシリ：プレゼンでは、舞台造作費、衣装補助を含まないつもりであると言っていた。

委員O：それだと収支が合わない。

委員：市で使うイベントは市民会館の使用料はタダになるのでは。企画課との連携はどうなっているのか。

事務局：昨年は50%減免の会場費が適用されている。

委員C：減額対象としてよいのでは。説明しながら“やりません”というのはおかしい。再度調査をした方がよい。

委員B：プログラムを資料として付けて欲しかった。

ファシリ：今年サブテーマで“家族”とつけているが。

委員B：来年以降、必要とされるのか。公益性があるのか。今後誤解される。

ファシリ：企画の意見はどうか。

委員H：他との大きな違いは。代表者の名前ばかり。団体より個人の名前が全面にでている。一貫性がない。

委員F：ミュージカル代を除いた15万円は。どれを補助金に使っているのか。

委員B：広告費だけで収入がある。

委員N：イベントとしては大きい。子どもにはよい。この場では結論がでない。

委員K：事務局にミュージカルについて確認してもらいたい。

委員J：補助金30万円の内訳を明記してもらおう。それを事務局に判断してもらおう。

ファシリ：もう一度出していただくのは、協議会の姿勢としてはどうか。

委員J：5月の申請書と差し替えになった。

ファシリ：ミュージカルについては中間報告のため衣装はいらない。予算書を再提出していただく。ミュージカルがない場合は、いつの時点で、なぜミュージカルがキャンセルになったのか知りたい。

委員L：ミュージカルは入場料をとるのか。

事務局：とっていない。ここまでの内容を確認すると、ミュージカルを行う予定だったが、プレゼンでは“やらない”と言っていた。ミュージカルのキャンセルの理由を伺う。広告費、団体持出金はそのまま予算書を作っていたかどうかということよいか。

ファシリ：しっかりとしたアートフェスティバルにしていきたい。

☞ NPO ありがとう ふじさん 補助金額：250,000円

*補助金の使途（内訳）において、衣装補助は認めない。を条件とする。

⑥ キラキラキッズクッキング

【審査用紙コメント】

- ・若いお母さん向けには大変大事です。子どもの将来生きていく力の為に必要なことです。
- ・食の安全の関心の低さや「選食力」などの課題の解決に向けた取り組みが薄いのが残念。協働の相手方…食育の面では健康推進課の関わりがないことが残念。事業の予算の組み立てがよく分からない。
- ・御殿場産の食材は想定しているものがあるか。親等はどのような形で参加するのか。
- ・今後食育への興味が薄い市民への働きかけも企画・検討して欲しい。
- ・団体の構成員を増やし、活動を広げると良い。調理指導者が必要な団体は多いと思うので、講師集団としてPRし、依頼団体から実費程度の代金をもらって活動し、収入が増えたら家庭センターでの拠点活動に充てる方法はどうか。
- ・補助金額は50000円となっているが、事業をより充実させても良いのではないでしょうか。

ファシリ：保険の部分プラスしたらどうか。補助金をプラスすることは可能なのか。

事務局：可能である。

委員H：保険は高いかもしれない。

ファシリ：でも、包丁を使っている。食材の買い出しは家庭センターであり、

2000円は食材費となっている。特殊なものは自分たちで買いに行くと言っていた。

委員H：定員20名に達する非常に関心の高い事業である。保険に入っていなかったら、加入していただく。

委員N：今後の報告会で注目したい。

委員M：食材負担を補助したり回数を増やしたらどうか。2、3年後子どもの役に立つだろう。

👉 キラキラキッズクッキング 補助金額：50,000円

*保険に加入していなかったら加入していただく。と伝える。

(増額分は補助金を増額)

⑦ (Motherese マザリーズ)

【審査用紙コメント】

- ・テーマとしては行政の課題に近い。「協働事業」としてではなく子ども家庭センター等の補助事業として進めるほうが継続性があると思う。
- ・団体のネットワーク力、活動の協力者や参加者となり得る。
- ・行政だけではなかなか手の届かない分野での事業だと思います。今後の発展を期待します。
- ・少子化、孤立の問題点の中、大変良い事業だと思います。御殿場はもっと子育て支援をすべきと思っていました。
- ・活動費用の中で飲食費の割合が高いと思われる。

ファシリ：行政が主導で行うべきとの意見があった。食事代が多いというコメントがあった。内規では食事は合計総額10万円となっているので問題はない。他にもっとこのようにしたらいいという意見はあるか。参加費として12万計上されている、実績はあるのか。

事務局：昨年の映画で実績がある。自信があるのでは。

委員D：別の視点から考えてみる。発達障害の子も含んでいるのか日産労働ハート基金が地元の団体と交流したいと探している。

委員H：マザリーズは未就園児を対象としている。その基金の対象にはならない。

委員K：その基金は道しるべの会に紹介したらどうか。

委員N：“産後離婚”の理由を男性に広めるといい。出できた課題に対応していただきたい。

ファシリ：コメントにあるように、子ども家庭センターで事業となるように密に連携をとって、しっかりとして協働事業を行っていただくということで満額を推薦する。

☞ Motherese (マザリース) 補助金額：50,000円

※会終了時に会長より、採択された市民協働事業に委員の出席を徹底するため、各々誰が出席するか担当を決めた方がよいとの意見があり、年内の事業についてはその場で担当を決めた。

15:30 終了